

「食物サイクル」

(第十四回)

私が今立っているのは、アフリカの大草原。以前は南ローデシア、現在はジンバブエと呼ばれている国だ。人も動物も植物も、すべてが大

自然の中に溶けこみ、微妙なバランスが保たれている。植物は昆虫に、昆虫は小動物に、小動物は大きな動物に食べられてしまう。しかし、大動物が死んでもその命は大地となってよみがえり、再び植物を育てるのに役立つ。この食物連鎖に、人間が関わっているのはほんの少しだけである。

健康のススメ

板東 浩

塚市で「トンボの池がピンチ」との報道。だれかが池に放った数匹のアメリカザリガニがあつという間に増え、トンボの幼虫のヤゴが激減。水を浄化する「クロモ」まで食べ尽くされ、水も濁ってきた。生態系はささいなことで壊れてしまう。

近年、問題となっている米国産のバスの激増。レジャーの二つにもなり、賛否両論があるのは理解できる。でも、キャッチアンドリリースは、本当に命の大切さを教えているだろうか。食べられることで役割を果たし、命の尊厳が伝わるのではなからうか。

先日、徳島のホタルが絶滅の危機、というニュースがあった。驚くとともに、子供の頃に見た幻影の情景が懐かしく思い出され、何とも言えない気持ちに。さらに追い打ちをかけるように、貝

語りあつてみよう。人間も動物の肉を食べて生きている。まず、身の周りから考えて、徳島、日本、地球全体へと視点を広げていきたいものである。

(徳島大学附属病院内科医師)